

語彙(ごい)も文法も、その人だけの独自なところは、まあ、ないのです。

語彙(ごい)も文法も、その人だけの独自なところは、まあ、ないのです。

述語から考えます。「ないのです」を、

・ **There is no A 「Aがない」**

にしてもいいのですが、「独自なところ」の「ところ」は、【**物理的な場所**】ではありません。物理的な場所でないとしても、**There is no A** は使えるのですが、そんなことを考えている間に、どういう方針にしたらいいのか、少し悩み始めてしまいました。

ここで使えると思った技術は、**イメージを浮かべにくかったら、より大きな単位で日本語を眺めてみる**です。それに従い、「独自なところは、まあ、ないのです。」のイメージを浮かべてみました。まず、「まあ、」です。

「まあ、」は、書き手が、次の表現を紡ぎ出している間に必要な間合いみたいなものです。**well** や **let me see** に当たるものを入れてもいいと思いますが、内容とは関係がなさそうなので、省くという手もあります。今回は後者を採用することにします。

そうすると残るは、「独自なところは、ないのです。」です。「ない」を **not** で表せると考え、逆の状況を考えてみました。「独自なところがある」です。「独自なところがある」人や、ものと考えてみると、【**他にはない特徴を持っている**】感じがしました。**special** は、他よりも何か優れている感じがしたので、

・ S is unique 「Sは独特だ」

を使うことにしました。

(1) S is unique

Sには【ほかとは違っているもの・ひと】が入ります。日本語を参考に
して、**vocabulary and grammar** を発想し、Sに入れます。

(2) vocabulary and grammar are not unique

(2)だと、【一般的な語彙や文法】ということになってしまいそうです。
これまでに出てきた、ある【一般的な人】が話す「語彙や文法」という
ことです。なので、それを明瞭に表すために **your** を付けました。

(3) Your vocabulary and grammar are not unique.

Model Answer

Your vocabulary and grammar are not unique.